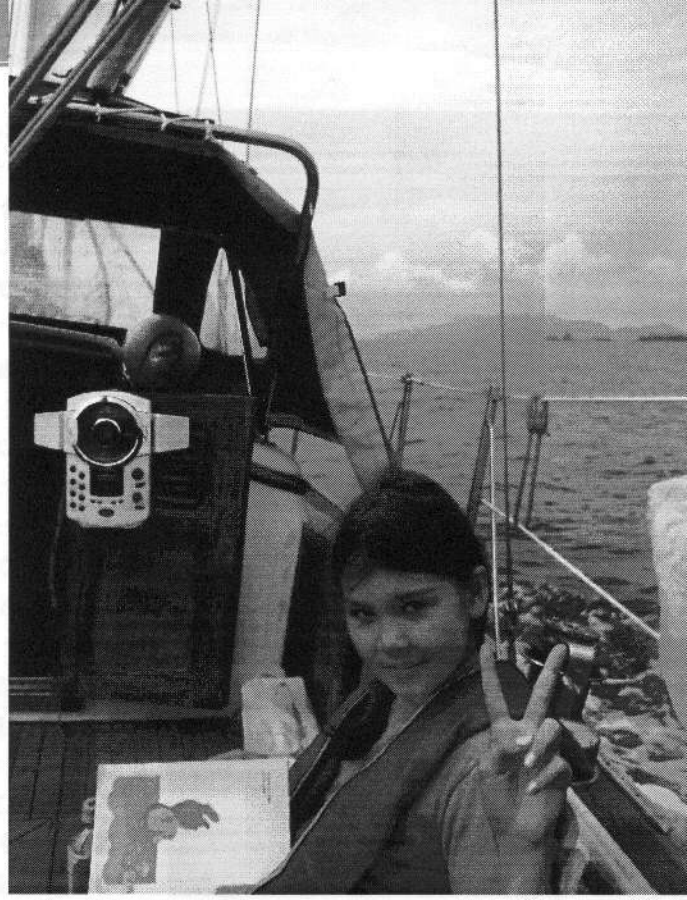
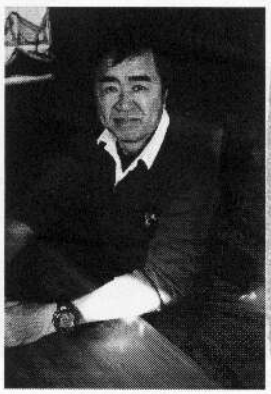
爺（グランパ）ちゃんと孫娘、二人きりの夏クルージング

神奈川県の諸磯を拠点にヨットライフを楽しむ山田誠治さん（●歳）。ヨット歴は30年以上にわたり、過去にはロシアへのクルージングも実現しているベテランセーラーだ。そんな山田さんは、この夏、愛艇〈スターダスト〉（フジ35）で、伊豆諸島へのクルージングを楽しんだという。パートナーは、孫娘のサブリナちゃん（11歳）。孫をつれてのクルージングは、ヨット遊びに新たな楽しみをもたらしたようだ。（編集部）

レポート・写真＝山田誠治
report by Seiji Yamada



山田誠治さんの愛する孫娘、サブリナちゃん（11歳）。この夏、周囲もうらやむ二人だけの夏クルージングを満喫した



ロシア方面への数度にわたるクルージングなど、豊富な航海経験を持つ山田誠治さん

ジイちゃん、カッコいい！

アンカーを投げ入れ、ゆるゆると船を進める。

「サブリナ、渡れるか？　そこにロープの輪をかけろ！」

「もう少し！　は～い、かけたよ！」

無事、伊豆大島の波浮港に着岸した今年の夏のクルージングの初日。周りの船から「お嬢さんですか？」と尋ねられる。「孫です」と答えると、「究極のダブルハンドですね」とうらやましがられた。

最近は、コンピューターゲームなど手軽に遊べるものが氾濫し、子供たちが自分で遊びを組み立てることは、ほとんどなくなった。しかし、バーチャルなゲームの世界にも、「船を手に入れる」というイベントがあると聞く。船で海の上を自由に走り回るという行為は、今も子供たちの夢の一つなのだろう。

そう、それを現実の世界で実現してくれるのがグランパ。カッコいい！ と、きっと尊敬の的になるはずだ。

何年ぶりかの夏クルージングは、11歳になった一番上の孫娘、サブリナを連れて伊豆諸島を巡ることにした。彼女は5歳から〈スターダスト〉に乗ってセーリングを楽しんでいるし、3年前には津軽海峡も横断している。船の生活がどんなものか、ある程度は分かってはいるものの、本格的なクルージングは初めてだ。

計画の基本は、無理をしないことに尽きる。航程は1日最大6時間、できるだけ上りのコースとならないよう天候と風向を見定めること。8m/sを超える風が吹きそうなら出港しないか、航程の短縮を見込んでコースを選定すること。様子が分かっていて、着艇場所があり、できれば毎日風呂に入れる港を選ぶこと。悪天候時は、できるだけ町のある港で過ごすこと。こういった点を考えながら、計画を立てた。

お盆の時期は、どこも混雑が予想される。できれば午前中、遅くとも14時前には入港することを心掛けた。子供が落水しないように、ライフラインなどの間隔の広いところは雑索で網目を作ったり、日焼け対策のためにはオーニングやビミニトップを使う。もちろん熱中症を防ぐために、冷たい水は欠かせない。

落水は、子供よりも自分自身が落ちるのが一番怖い。だから作業は安全第一。子供にも危険な場所ははっきりと言い聞かせ、少し厳しいくらいに注意する。普通のクルージングよりずっと手間はかかるが、安全のために手は抜けない。

でも、いろいろな作業を手伝わせることで、「自分もクルージングに参加しているんだ」という意識を持たせられれば、本人にとっても一層楽しくなるはずだ。今回は、お菓子や漫画などは自分で選ばせて管理させ、不要なものは持たせないようにした。ただ、実際は狭い船内の自分のバースでも、どこにやったか分からないものがいろいろ出てくるものだ。それでも自由気ままな時間と空間を与えることで、子供自身はすごく楽になるし、普段の生活の何倍もの「学ぶこと」があったと思う。

一緒に楽しみ、成長する

今回は通い慣れた伊豆の島巡りということで、寄港地は伊豆大島の波浮、新島、神津島、下田と決めた。

8月10日、前日までの南風も収まって風は北に回った。大島まで追手で行けるし、気圧配置も安定してきたので、午前5時、ホームポートの諸磯を出港。向こう5日間の好天は間違いないものの、後半は風が強くなりそうなので、下田か伊東で過ごすという想定だ。

城ヶ島沖は北東の風6m/s。大きくヒールはしないのだが、サブリナは船内のリーサイドに寝かしておいた。バースには、転げ落ちないようにリーボードキャンバスが張ってある。

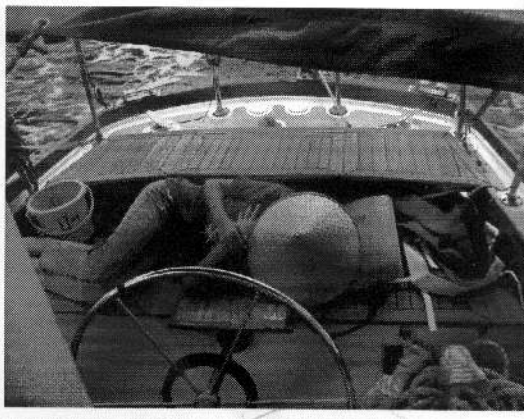
風早埼に並ぶ頃に起き出してきて、「なんか酔ったみたい……」。薬を飲み忘れたようだが、朝早く出てしまったから仕方ない。これも学習事項だ。それでも大島に近付くと、島の緑と黒潮の色に驚いたようで、「これが本当の海なんだね」。

翌11日は新島への途中、流していたケンケンにシイラが掛かった。すると、「金色の魚って初めて見たよ」。鵜渡根島に近寄れば、「無人島って初めて見た。すごいね、海が川みたいに流れてる」。そう、海には初めてのものがあふれているから、漫画なんか読んでいる暇はないのだ。

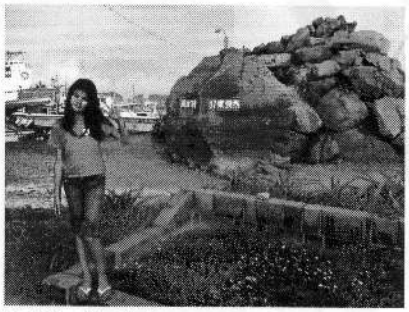
新島・●●港に入ると間もなく、同じホームポートの〈パゴパゴ〉が入港してきた。サブリナも顔なじみだから、すぐに行ったり来たり。お昼をご馳走になったり、面倒見のいいクルーに温泉に連れて行ってもらったり、ボートを膨らませて海水浴、と忙しい様子だ。

12日の目的地の多幸湾にも旧知の船が入っていて、一緒に村営温泉へ。ここでも人気者のサブリナ。二人も楽しいけれど、いろんな人と一緒になれるのもクルージングの楽しみだ。氷を食べ過ぎてお腹が痛くなったけれども、薬を飲んで翌朝はケロリとしていた。健康管理も、だんだん自分でできるようになる。

次の下田では、ラッキーなことにお祭りと花火が待っていた。こういったイベントも、クルージングの思い出になるものだ。この後、伊東に立ち寄り、急に発生した台風を避けて16日には諸磯に戻った。「まだ帰るのは早いよ。もっといようよ」と言い出す始末で、よほど楽しかったんだろう。



コクピットでぐっすりのサブリナ。安全対策や日焼け対策など、子供の身になって考えることが大切だ



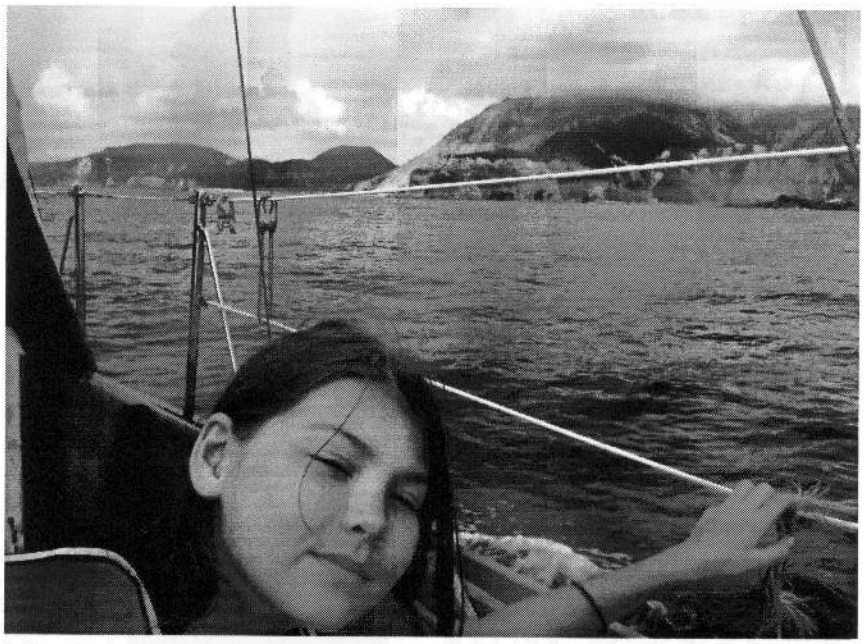
神津島の前浜海岸にて。子供を飽きさせないためにも、町が近いこと、温泉があることなども、港選びの際に配慮したい

「メイン詰めようか」とか、「コースはこれでいいの？」とか、いっぱしのヨット乗りになった様子のサブリナ。一緒に連れて来てよかったなと、グランパは心から思う。天気にも恵まれ、最高のクルージングができた。

子供が楽しめるということは、自分も楽しめるということでもある。30年前には、まさか自分が孫を連れてこの海や島をクルージングするなんて、夢にも思わなかった。

熟年世代のヨット乗りの皆さん、孫を連れて海に出ましょう！ そのためには、一人で出られる技術があっても、子供を乗せることは大きなリスクを伴うのを忘れずに。自分の技術や判断に不安があるときは、やめておくべきだと思う。まずは一人で不安なく走れる技術を磨き、そして日帰りの航海から始め、1泊、2泊と距離を延ばしていくこと。そして、臨機応変に横付けや槍付けができるように。

基礎体力はもちろん、自分自身や子供の健康状態も考慮に入れ、体力や船の能力は2～3割の引きで考えることも大切だ。そして、休養は十分にとるような航海計画を立てていただきたい。そうすれば、究極のダブルハンドも夢ではなくなるはず。来年の夏を楽しみに、今から準備してみてはいかがだろうか。



新島の断崖絶壁の、真っ白な岩肌がまぶしい。日常生活では決して味わうことのできない「初めて」があふれている